

公開授業に多数が参加 学生によるコース紹介も 学部オープンキャンパス



茨城大学のオープンキャンパスが25日に開かれ、人文学部でも講堂での説明会や公開授業、学生・教員による説明会に来場者の多数が参加、盛況のうちに終了しました。

ほとんどが高校生や保護者で、茨城県内はもちろん、遠くは北海道・札幌や北関東、東北からも多数が詰めかけました。事務局によると、全学ベースの今年の来場者は、昨年より約600人多い7800人で過去最高を記録しました。

学部の10人の教員による公開授業は、とりわけ盛況で、昨年より400人強多い2000人強が講義棟の教室に詰めかけました。



中でも、目立ったのが伊藤哲司教員の「他者と出合い自分を知る心理学」や市川千恵子教員による『フランケンシュタイン』の謎—怪物とは何者か』などで、この講義には、200人以上が詰めかけ、すし詰めの状態となりました。



添田仁教員による「甦った”かたき討ち—被災した古書」や、村上信夫教員の『メディアって何だろう』僕らが世界を知るために」、乙部延剛教員の『みんな』で決めれば正しい?—民主主義を考える』なども人気で、100人以上が集まりました。

りました。

講義棟2階では、学生や教員による学部説明会が開かれ、ここにも大勢の高校生らが詰めかけ、受験を意識した相談に学生や教員が乗っている光景が見られました。

今年の特長としては、メディア文化コースの村上ゼミ生の発案による自主的なメディアコースの説明会が開かれたことでしょう。ゼミ員がメディア文化コースのPRのため作成した5分程度の動画を村上教員の公開授業の冒頭で流し、これに興味を持った高校生など



が終了後に講義棟2階の専用部屋を訪れ、ゼミ員の説明に聞き入っていました。

終了後の反省会では、来場者の受験相談に当たっていた学生などから「コースの違いの質問に上手く答えられなかった」、「議論を吹っかけてくる高校生がいて対応に苦慮した」などの声が聴かれました。



(終)

